

平成30年度 第3回沼田市子ども・子育て会議 会議録（概要）

会議の概要

開催日時	平成31年3月29日（金） 午後1時から午後3時
開催場所	沼田市役所 東原庁舎 2階 会議室
出席者 ◎会長 ○副会長	<p>【委員】 石坂委員、大城委員、小淵委員、○櫛淵委員、◎小林委員、田辺委員、庭野委員、藤巻亜委員、藤巻貞委員、星野委員、松井委員、森村委員、吉田委員</p> <p>【市関係者】 角田健康課長</p> <p>【事務局】 小池子ども課長、青柳子育て支援係長、見城保育係長、高木副主幹、萩原主査</p>
次第	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ（会長）</p> <p>3 議事 (1)沼田市子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査の結果について (2)「第2期沼田市子ども・子育て支援事業計画」策定について (3)幼児教育無償化について (4)その他</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査結果報告書 ・第2期沼田市子ども・子育て支援事業計画策定について ・幼児教育無償化について

議事要旨

発言者	議事の経過及び発言の要旨
	<p>1 開 会 2 あいさつ 会長 3 議 事</p>
会 長	<p>(1)沼田市子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査の結果について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>【「ニーズ調査結果報告書」により説明。】</p> <p>○調査結果の概要について</p> <p>就学前児童保護者用は、対象者数1,448人に対し、1月17日付けで郵送配布、2月12日までに郵送で届いたもの702件を回収、回収率48.5％となっている。前回実施の平成25年度の49.9％より微減。小学生については、抽出した1,000人に対し、学校経由で1月17日に配布、1月31日に回収した。回収率は90.1％と前回の97.5％を下回っている。</p> <p>○就学前児童保護者調査結果について</p> <p>前回調査と比べて差があったものを中心に説明する。</p> <p>問9「子育てについて気軽に相談できる人、または場所の有無」を問う設問で、「いる／ある」の回答が87.0％と前回の93.9％から6.9ポイント減少している。孤立化の課題が読み取れる。</p> <p>問11「母親の現在の就労状況」の設問で、「以前は就労していたが、現在は就労していない」の回答が21.1％と前回の31.0％から9.9ポイント減少している。仕事を続ける母親の増加が読み取れる。また、問11-1で母親の就労時間について「8時間」の回答が41.0％と前回の32.6％から8.4ポイント増加している。家を出る時刻について、「7時」の回答が36.2％と前回の17.3％から18.9ポイント増加している。家を出てから帰宅するまでの時間も、8時間、9時間、10時間いずれも増加しており、就労時間の長時間化の傾向が読み取れる。一方で、父親の就労状況については、前回と大きな差が見られない。</p> <p>問13-1「平日に定期的に利用している教育・保育の事業」について、幼稚園が7.4％と前回の24.7％から大きく減少、認定こども園が26.7％と前回の12.0％から大きく増加している。幼稚園から認定こども園への移行が進んだことによる。問13-2の「現在の利用状況」では、現在の1日あたりの利用時間について「7～10時間」が75.5％と前回の65.9％から9.6ポイント増加している。また、利用開始時間を7時又は8時と回答した方の割合、利用終了時間を17時と回答した方の割合が増加しており、平成27年度施行の子ども・子育て支援新制度以降、長時間化の傾向が読み取れる。</p> <p>問13-4で教育・保育事業を現在利用していない方に対し、何歳くらいになったら利用しようと考えているか、という設問に対しては、「1歳」と答</p>

えた割合が39.8％と、前回の12.2％より27.6ポイント増加していることから、低年齢化の傾向が見られる。

問14、2019年10月からの「幼児教育・保育無償化」の認知度を尋ねる、新設の設問では、「知っていた」が72.1％と認知度が高い結果が得られた。一方、問15の「定期的に利用したい平日の教育・保育事業」の回答について、問15-1で「幼児教育・保育無償化が影響しているか」という質問を新設しているが、これに対しては、「影響していない」が76.6％と、事業の選択に無償化の影響は少ないという結果となっている。

国の方針で新設された問15-3では、問15の回答のうち、「特に幼稚園（幼稚園の預かり保育ををあわせて利用する場合を含む）の利用を強く希望するか」という質問に「はい」と答えた割合が64.9％と、幼稚園の利用希望が高いという結果となった。

問16の地域子育て支援拠点事業の利用に関する質問では、利用している割合が前回より増加し、1週間あたり、1か月あたりの利用回数も増加している。一方、問17の今後の利用希望についての設問では、「利用していないが、今後利用したい」の割合が17.1％と、前回の27.1％より10ポイント減少している。保育の利用増の影響、あるいは認知度が上がって既に利用している人が増加している、などの要因が考えられる。

新設の問18、子育て支援事業の認知度を問う設問では、市の子育て相談窓口（子育てコンシェルジュ）、子育て世代包括支援センター（ぽかぽか）、家庭児童相談室の認知度が50％以下という結果であり、認知度を上げるための取組が必要である。また、ファミリー・サポート・センターについて、認知度は60.5％であるが、「利用したことがある」が7.0％と少ない割合となっており、「知っているが利用していない」という結果が現れている。利用率を上げるための取組が必要である。

問19の土日・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望を問う設問では、「ほぼ毎週利用したい」「月に1～2回は利用したい」共に前回より増加しており、ニーズが高まっていることがわかる。

問21-1の「子どもが病気等で定期的に利用している教育・保育事業が利用できなかった場合の対応」について、「母親が休んだ」という回答が87.7％と高い割合になっている。母親の負担が大きいことがわかる。

子どもの私用目的での不定期の預かりの利用について尋ねる問22では、「利用していない」が87.9％と利用が少ない状況である。一方、利用希望を尋ねる問23では、「利用したい」が35.3％で前回の26.7％より8.6ポイント増加している。

問25・問26の小学校就学後の放課後の過ごし方の希望を問う設問では、「放課後児童クラブ（学童クラブ）」の回答が、低学年43.3％、高学年32.0％と、高い割合となっている。

問29の、育児休業の取得状況の設問では「母が育児休業を取得した（取得中）」が47.3％と前回より15.5ポイント増加し、育児休業を取得し働き続け

る母親が増加していることが分かる。

問33の市に対し充実を期待することを尋ねる設問では、前回同様、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい」が76.9％と高くなっている。

問34の沼田市における子育て環境の満足度を尋ねる設問では、評価1と2を合わせた「満足度が低い」割合が44.9％と、評価4と5を合わせた「満足度が高い」割合11.4％より33.5ポイント高く、前回より7.2ポイント増加している。自由記述回答の分析を含め、要因の詳細な分析が必要である。

○小学生保護者調査結果について

前回と対象学年が異なるため、単純な比較分析は難しいが、子どもの放課後の過ごし方としては、「放課後児童クラブ（学童クラブ）」が、低学年で41.6％と比較的高い割合となっている。

問21の沼田市における子育て環境の満足度を問う設問では、評価1と2を合わせた「満足度が低い」割合が38.5％と、評価4と5を合わせた「満足度が高い」割合10.0％より28.5ポイント高くなっている。就学前児童と同様、要因の分析が必要である。

全体として読み取れるのは、就労状況が変化し、女性の育児休業取得が進み、保育の利用、学童の利用が増加している状況である。一方で、本市の子育て環境の満足度が低下している状況が分かったが、要因については自由記述の意見を詳細に分析する作業が必要である。自由記述の回答については、別資料にまとめた上で提示する予定である。

会 長 事務局の説明が終わったが、意見等おきかせいただきたい。

委 員 膨大な報告書の資料を見て、すぐに結果が理解できる人は少ないと思う。事務局が説明した内容を資料として共有できるとよい。

事務局 ただいま説明した内容を概要としてまとめ、報告書と一緒にホームページに掲載したい。

会 長 概要のまとめを事務局にお願いすることによろしいか。

委 員 (異議なし)

(2)「第2期沼田市子ども・子育て支援事業計画」策定について

会 長 事務局から説明をお願いします。

【資料1 「第2期沼田市子ども・子育て支援事業計画策定について」により説明。】

事務局 国の基本指針の改正が、6月を目途に発出予定との情報である。主な改正

項目は、幼児教育・保育の質の向上、幼稚園・預かり保育の利用希望の把握、国際化への配慮、社会的養育・児童虐待防止対策、新・放課後子ども総合プランを踏まえた計画作成、幼児教育無償化、などである。

資料に示したスケジュールを基本に、専門委員会を随時開催しご意見を伺いながら、計画策定に向けて進めていきたい。

会 長 幼児教育アドバイザーとはどんな制度か。

委 員 文部科学省の施策である。現行の指導主事制度を踏まえて、よりよい制度設計にしていきたい。私立園も対象としながら、どのように運営していくのが課題である。

会 長 統廃合のガイドラインも含め、7月頃までにたたき台を出す必要がある。そう遠くないうちに専門委員会を開催したい。そのほかについては事務局説明どおりでよろしいか。

委 員 (異議なし)

(3) 幼児教育無償化について

会 長 事務局から説明願いたい。

【資料2-1「国パンフレット」、資料2-2「市パンフレット」、資料2-3「利用者負担（保育料）基準額表」、資料2-4「広報4月号記事」により説明】

事務局 10月1日からの幼児教育無償化の方針が国から示されているが、沼田市では4月からの先行実施を予定している。

委 員 市の財政負担はどのくらいになるのか。

事務局 あくまで試算であるが、該当児童950人、36,500千円の予算を見込んでいる。

4 その他

- ・子ども広場の移転整備について
- ・子育てサロン結いっこについて
- ・ほめて育てるコミュニケーショントレーニング「ほめトレ」について
- ・「沼田市子育てガイド」について

事務局 【資料「子ども広場について（回覧）」により説明。】

テラス沼田6階の整備工事が完了し、移転に向けた準備を進めている。4月1日付けの回覧文書で周知を予定。ほかの2か所の地域子育て支援拠点と

連携しながら、よりよい施設となるよう進めていきたい。

【資料「子育てサロン 結いっこ（回覧）」により説明。】

主任児童委員による「子育てサロン 結いっこ」の平成31年度の予定をお知らせする。今年度より、子育てコンシェルジュも参加している。

【資料「ほめて育てるコミュニケーショントレーニング（ほめトレ）チラシ」により説明。】

群馬県がほめトレのDVDを作成した。子ども課に3枚配布されている。貸出しするので、保護者が集まる機会に利用されたい。

【資料「沼田市子育てガイド」により説明。】

平成31年度の子育てガイドを作成したので配布させていただいた。

なお、5月7日より子ども課はテラス沼田3階に移転予定である。

委員 先日、八戸市の支援センターを訪問した。東京のデザイナーが手がけたお洒落なデザインの施設で、「まちづくり」というコンセプトが要所要所に入れられている。まちづくりに比較的積極ではない層を取り込んで、子どもを通じて、スタッフと保護者が一緒にまちづくりをするという機運が感じられた。子ども広場も、まちづくりの拠点となるような施設にしていけるとよい。

委員 子育てガイドについて、カラー印刷で、防犯や入学に向けたスケジュールなど、子育ての不安解消につながるテーマをわかりやすく掲載している。沼田市でも、多少なりともお金をかけて作成してはどうか。

会長 意見を念頭に入れながら、今後も進めていきたい。
また、4月から外国人が増加する可能性があり、早急に対応を考える必要がある。大泉町では無就学児が問題となっている。

事務局 学校教育課と連携しながら、対応を考えたい。

会長 次回の子ども・子育て会議の前段で、子ども広場を見学してはどうか。30分程度見学してから会議を行うこととしたい。

委員 (異議なし)

5 閉会